

南アフリカ 品目の多様化でアボカドの生産が増加

[EUROFRUIT 2024年5月22日](#)

生産者らが新たに開拓する生鮮果実を探しているためアボカドはケープ地域の新しい話題となっている

南アフリカのケープ地方の南部と西部でアボカドの生産量が増加しており、果樹生産者が農業ビジネスを多様化していると言われている。ケープ地方では、すでに1千ヘクタールのアボカドの栽培が報告されており、これは現在、国内のアボカド栽培面積の約5%を占めている。

南アフリカの様々な地域の生産者が異なる気候区分で新しい品目を模索しているため、現代的な果樹農業に不可能なことは何もないように思われる。これには、これまで新しい品目が真剣に検討されてこなかった場合もあれば気候変動が原因の場合もある。

その一例が、低温要求の少ないリンゴ品種の開発であり、国の北部やナミビアでさえもリンゴを植えることを可能にしている。また、これらは従来の品種よりも早く熟するため、通常よりも早く販売することができる。

また、ケープ州はこれまで常にブルーベリーの主産地であり、当面はそれが続く可能性がある。しかし、近年、国の北部でブルーベリー栽培が急速に拡大し、より長期間にわたって輸出市場に供給できるようになった。南アフリカがインドや中国などの東方の主要な消費市場にアクセスできるようになると、北部地域は国の東部の港からこれらの市場に供給するのに理想的な位置にあるため、同地域での拡大が続くと予想される。

もう一つの例は、アボカドの生産がケープ地方の南部と西部に広がっていることである。これらの地域の収穫は10月から12月の間、さらには1月までで、生産者は過去よりもはるかに遅くまで果実を出荷することができる。伝統的な品目の生産規模が非常に大きいため、こうした新しい動きは取るに足らないことのように見えるかも知れないが、それでも重要である。これらの地域での生産量の増加は、従来オフシーズンであった時期の供給を増やすだけでなく、以前は不可能だった年末に向けた輸出も可能にする。また、南アフリカは国内市場向けのアボカドを自給自足できるようになった。

亜熱帯果樹生産者協会(Subtrop)のデレック・ドンキン氏によると、ケープ地方の南部と西部の地域は、霜が降りない場所を選べばアボカドの生産に非常に適している。同氏は、「世界中の国々の地中海性気候の土地はすべてアボカド産地であり、これらの地域で生産者がアボカドを植えるのは当然である」と説明した。

最新の情報によると、アボカド果樹園は現在、西ケープ州のソマセットウェスト地区近くのヘルダーバーグ盆地と、ベルク川近くのリービークカスティール地区にも設置されている。ソマセットウェスト近くのローレンスフォード果樹園(詳細省略)は現在、カーステン・グループによって管理されており、生産責任者のピエ・デュ・プレシス氏は同果樹園にはすでに15ヘクタールのアボカドがあると言い、「まだ始まったばかりだが、事業の進み方に非常に満足している」と述べた。

西ケープ州の他の地域では、リービークカスティール地区の果樹園はまだ非常に若い。当面は、ジョージ地区からハイデルバーグ地区までの地域が主な産地であり、これらの晩生の地域はすでに全国の収穫量の5%を占めている。

執筆者: フレッド・メインチェス